

IJA TYPE 97 IMPROVE MEDIUM TANK "NEW TURRET"

# "SHINHOTO CHI-HA"

帝国陸軍

1/35スケール プラモデル ITEM No. FM21

## 九七式中戦車 [新砲塔チハ]



追加・訂正説明書

### 作る前にお読みください

- 本説明書は別紙「組立説明書」[実車解説]説明書の追加及び変更箇所を対応する工程毎に説明したものです。履帯部品は付属のTR部品のみです。
- 別紙組立説明書と本説明書のイラストを併せて見ながら、部品の取り付け位置を確認して組み立て作業を進めてください。説明書に記載していない部品は不要部品です。
- 各部の塗装はGSIクレオス、Mr.カラーの番号を□内の数字で、親けて色名を表示しています。水性ホビーカラーやアクリジョン、タミヤカラーを使用する場合はカラーナンバー対応表をご参照ください。

This is an unassembled model kit. Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. Belt type Track parts not included. Check the position of the installation before installing parts following the illustration. Pin vise with 0.6mm & 1.0mm, are also required for assembly. The boxed numbers in each illustration refer to the number of "Mr. COLOR" from GSI Creos. Also check the color reference on the Painting & Marking page.

### ディテールアップパーツ(別売り)

※価格は販売店様へお問い合わせください

DETAIL-UP PARTS NOT INCLUDED, SOLD SEPARATELY

九七式中戦車(新砲塔チハ)/一式中戦車用47mm砲 砲身  
(真ちゅう製挽きもの)  
製品番号: MG60

Replacement Gun Barrel for Type 97 (Shinhoto Chi-ha) & Type 1 Medium Tank 47mm Cannon (Brass) ITEM No. MG60

九七式中戦車系列用エッチングパーツセット  
(真ちゅう製エッチングパーツ)  
製品番号: MG64  
Extra Detail Parts for Type 97 Medium Tank Series (Photo-Etched Parts) ITEM No. MG64



別売りのディテールアップパーツを取り付ける場合は、組立図中に上記マークのある段階でおこないます。取り扱いの詳細は、ディテールアップパーツ製品に封入された組立説明書を参照ください。

Installs Detail-Up Parts at the step indicated the left mark if you would like to do.

組立図中で塗装指示の無いものは「塗装とマーキング」ページで説明する車体色で塗装します。 Paint all parts body color except other color is specified.

#### 1 転輪の組み立て

《下部転輪》Wheel  
x4 4個作ります  
Make 4 pieces

B7  
B8  
B17  
B33

タイヤブラック  
TIRE BLACK  
又は or  
つや消しブラック  
FLAT BLACK

#### 《下部転輪・サスアーム付》Suspension Boggy

x4 4個作ります  
Make 4 pieces

B5  
B6  
B11  
B12  
B13  
B14  
B17  
B33  
B39

タイヤブラック  
TIRE BLACK  
又は or  
つや消しブラック  
FLAT BLACK

#### 5 転輪の取り付け1

#### 6 転輪の取り付け2

B10  
B11  
B12  
B17  
B33

#### 7 履帯の取り付け1

※①から⑧の順に取り付けます  
Install in the order from ① to ⑧.

TR1  
TR2  
TR5  
TR6  
TR7  
TR8

取り付け参考図  
Attachment reference

車体前側より  
Front view

横  
SIDE

#### 7 履帯の取り付け2

※①から⑧の順に取り付けます  
Install in the order from ① to ⑧.

TR1  
TR2  
TR5  
TR6  
TR7  
TR8

取り付け参考図  
Attachment reference

車体前側より  
Front view

横  
SIDE

#### 9 車体の組み立て

DETAIL OPTION UP  
F21

#### 11 車体の組み立て

TC18 陸軍カーキ  
JAPANESE ARMY KHAKI  
DETAIL OPTION UP

#### 12 車体後部側面・装備品の取り付け1

TC18 陸軍カーキ  
JAPANESE ARMY KHAKI  
F24  
F25  
43 ウッドブラウン  
WOOD BROWN

#### 13 車体後部側面・装備品の取り付け2

F28  
TC18 陸軍カーキ  
JAPANESE ARMY KHAKI

#### 14 車体後部・装備品の取り付け

DETAIL OPTION UP  
A20  
F32  
28 黒鉄色  
STEEL

#### 17 砲架への取り付け

C14  
C18  
DETAIL OPTION UP

#### 19 砲架への組み立て2

TC18 陸軍カーキ  
JAPANESE ARMY KHAKI  
C12 (托架)

■ 部品を破損・紛失された際は

紛失・破損などにより部品を請求される方はランナー(枠)単位で有償にてお受けいたします。下記の部品請求カードの必要ランナー名を○で囲みます。代金(消費税・送料込)を「定額為替」現金書留からお選びいただき、当社アフターサービス係(宛先は下記)まで本カードとともに申し込んでください。いずれのパーツも本カード1枚につき1キット分に限らせていただきます。製品はその仕様もしくは価格を予告無く変更することがございます。下記記載以外の部品ご請求は別紙組立説明書巻末のカードをご利用ください。

有限会社ファインモールド  
〒441-3301  
愛知県豊橋市老津町場53-2  
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811

インターネットホームページ  
http://www.finemolds.co.jp

Eメールアドレス:  
otemami@finemolds.co.jp

© 2018 Fine Molds Made in Japan

# 塗装とマーキング

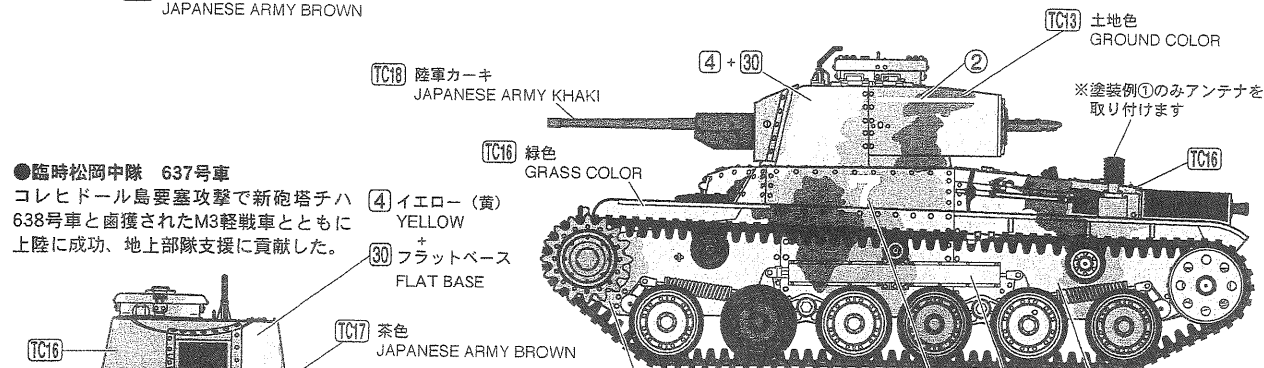
車体迷彩色は GSI クレオス製 Mr. カラー特色セット日本陸軍戦車迷彩色「CS662」と「CS663」、GSI クレオス Mr. カラーの色番号を□内の数字で、続けて色名を表記しています。○で囲まれた数字は付属デカール(水転写シール)の番号です。Boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers. Circle numbers refer to decal numbers.

## 大戦中期までの迷彩 Painting & Marking [Early]

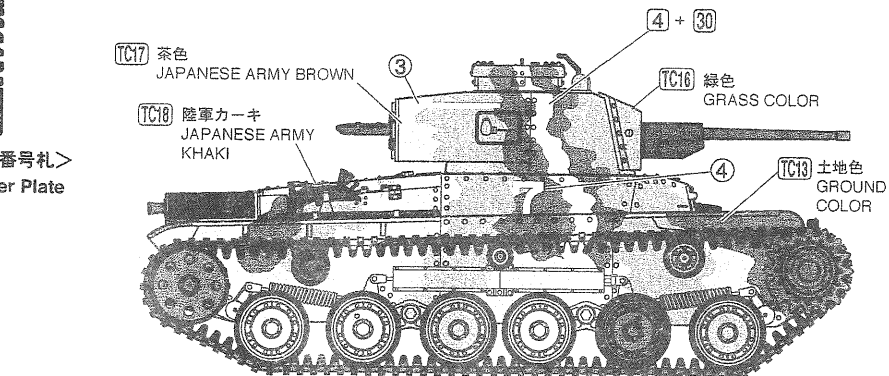
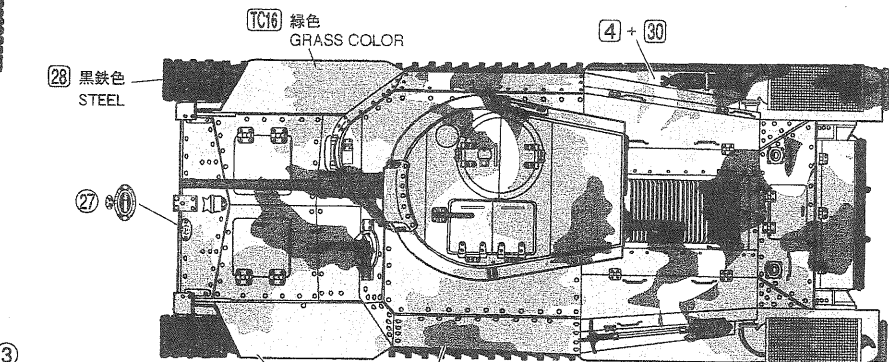
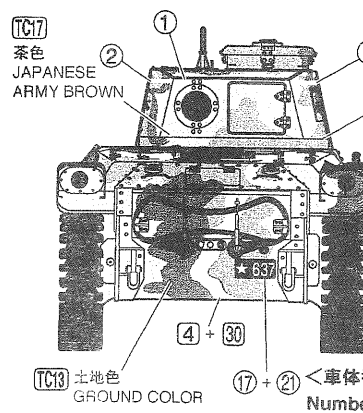
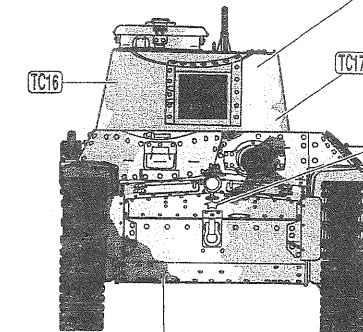
※塗装例①～⑥まで共通の迷彩塗装です。図示していないデカールは使用しません。

塗装例①, 戦車第七連隊 臨時松岡中隊 高久伍長車(637号)コレヒドール島 昭和17年  
Scheme ①, 7th Tank Regiment 1942

- 車体色: TC13 土地色 GROUND COLOR  
Body color: TC16 緑色 GRASS COLOR  
TC17 茶色 JAPANESE ARMY BROWN



●臨時松岡中隊 637号車  
コレヒドール島要塞攻撃で新砲塔チハ638号車と交換されたM3軽戦車とともに上陸に成功、地上部隊支援に貢献した。



# 塗装とマーキング

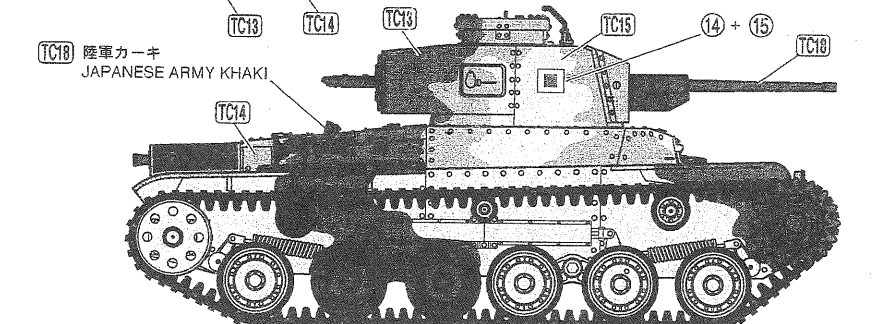
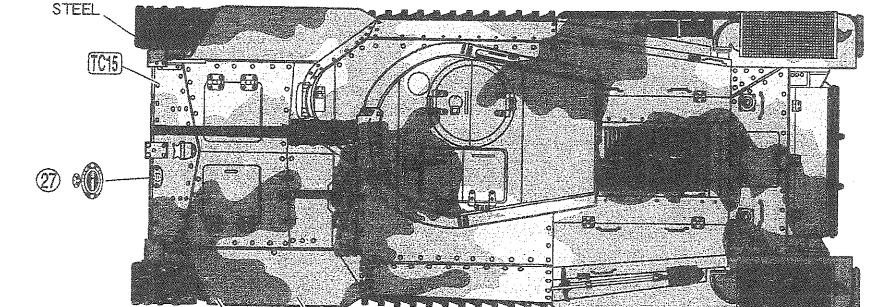
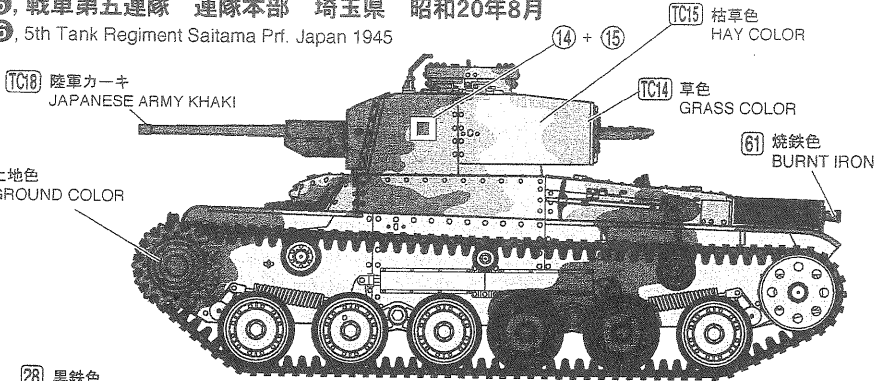
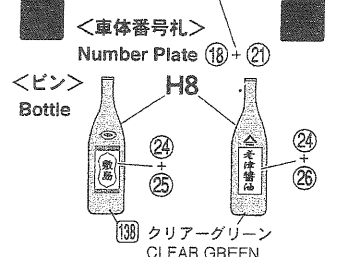
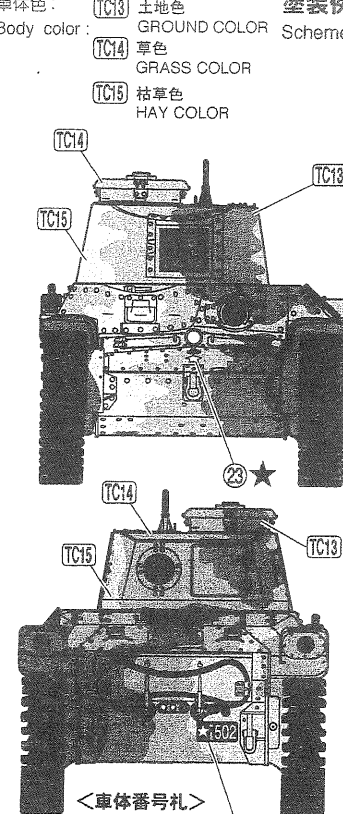
## 大戦後期までの迷彩 Painting & Marking [Late]

Above indicated colors assort as "Mr. SPECIAL COLOR SET: Tank Colors for Imperial Japanese Army". (Product No. CS-662 and CS-663 from GSI Creos) Other boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers.

塗装例⑥, 戦車第五連隊 連隊本部 埼玉県 昭和20年8月  
Scheme ⑥, 5th Tank Regiment Saitama Prf. Japan 1945

- 車体色: TC13 土地色 GROUND COLOR  
Body color: TC14 草色 GRASS COLOR  
TC15 枯草色 HAY COLOR

- TC13 土地色 GROUND COLOR  
TC14 草色 GRASS COLOR  
TC15 枯草色 HAY COLOR  
TC18 陸軍カーキ JAPANESE ARMY KHAKI



カラーナンバー対応表		Color Reference		
GSIクレオスMr.カラー(□数字)	GSIクレオス水性カラー	GSIクレオス-アクリジョン	タミヤカラー	English
1 ホワイト(白)	H1 ホワイト(白)	N1 ホワイト(白)	X2 ホワイト	White
4 イエロー(黄)	H4 イエロー(黄)	N4 イエロー(黄)	X8 レモンイエロー	Yellow
8 シルバー(銀)	H8 シルバー(銀)	N8 シルバー(銀)	X11 クロムシルバー	Silver
9 ゴールド(金)	H9 ゴールド(金)	N9 ゴールド(金)	X12 ゴールドリーフ	Gold
28 黒鉄色	H18 黒鉄色	N18 黒鉄色	XF10 ガンメタル	Steel
30 フラットベース	H40 つや消し剤	N40 つや消し剤	X21 フラットベース	Matt base
33 つや消しブラック	H12 つや消しブラック	N12 つや消しブラック	XF1 フラットブラック	Matt Black
41 レッドブラウン	H47 レッドブラウン	N47 レッドブラウン	XF64 レッドブラウン	Red Brown
43 ウッドブラウン	H37 ウッドブラウン	N37 ウッドブラウン	XF2+XF64	Wood Brown
47 クリアーレッド	H90 クリアーレッド	N90 クリアーレッド	X27 クリヤーレッド	Clear Red
49 クリアーオレンジ	H92 クリアーオレンジ	N92 クリアーオレンジ	X26 クリヤーオレンジ	Clear Orange
61 焼鉄色	H76 焼鉄色	N76 焼鉄色	XF7+XF56	Burnt Iron
62 つや消しホワイト	H11 つや消しホワイト	N11 つや消しホワイト	XF2 フラットホワイト	Matt White
137 タイヤブラック	H77 タイヤブラック	N77 タイヤブラック	XF85 ラバーブラック	Tyre Black
138 クリアーグリーン	H94 クリアーグリーン	N94 クリアーグリーン	X25 クリヤーグリーン	Clear Green
TC13 土地色	日本陸軍戦車後期迷彩色セット(CS663)			Ground Color
TC14 草色				Grass Color
TC15 枯草色				Hay Color
TC16 緑色	日本陸軍戦車前期迷彩色セット(CS662)			Green
TC17 茶色				Brown
TC18 陸軍カーキ				Khaki Brown

### デカールの貼り方

1. 1回に必要なマークのみを台紙と共にハサミで切り抜きます。
2. 切り出したマークを10秒から20秒程度ぬるま湯に浸してから引き上げます。
3. 貼りたい位置にマークを台紙ごと移動し、マークをすらすらとモデルに移します。
4. 濡らした指などですらしながら正しい位置に動かします。
5. 位置が決まったら、柔らかい布や綿棒などで気泡と水分を押し出すようにマークを固定します。(力を入れすぎるとマーク全体が移動するので注意)
6. 曲面や凹凸部にマークを密着させる際は、GSIクレオス製 Mr. マークソフターを使用し、綿棒などで慎重に作業します。貼ったマークは乾いて固まるまで触れないでください。(マークソフター本体の取扱説明書も参照ください)

### Decal Application:

1. Cut off each decal mark from the sheet. 2. Dip the mark into lukewarm water for about 15 seconds. 3. Place the mark in position, and slide it off the base paper and onto the model. 4. Move decal into position by wetting the decal with finger. 5. To push out excess water and air bubbles under mark. Press the decal gently with a soft cloth or cotton swab sticks. 6. Use a hot steaming towel or decal softener to mold decal over sculpted or nonflat surface. 7. Do not touch the decal until it has become dry and firmly attached to model.

L.J.A. TYPE 97 IMPROVED MEDIUM TANK "NEW TURRET"  
**"SHINHOTO CHI-HA"**  
 帝国陸軍

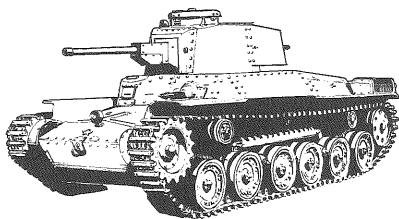
1:35スケールプラスチックモデル組立キット KIT No. FM21



※当ページの無断転載を禁じます。

九七式中戦車 [新砲塔チハ]

九七式中戦車チハはそれまでの八九式中戦車に代わるものとして昭和12年に採用された。最大装甲厚25ミリ、主砲は57ミリ砲を装備した歩兵支援用の戦車である。当時の概念としては標準的なものであり、列強の戦車に比較して特に劣ったものではなかったはずである。だがこの時代における各種兵器の発達傾向は激しく、世界的には程なく戦車にも対戦車能力が求められるようになっていった。このような状況の中、後に高初速の対戦車砲を装備した「新砲塔チハ」が開発されていったのである。



■47ミリ砲の開発まで

対戦車砲搭載戦車は、ノモンハン事件の直前の昭和14年3月4日からの戦車研究委員会の記録に見ることができる。この研究会は次期戦車装備を審議するものであり、陸軍省、参謀本部、教育総監部、技術本部、歩兵学校、戦車学校からの人員で構成されていた。

3月6日に提出された新中戦車設計条件では「砲は先ず57ミリ戦車砲とするも対戦車砲又は、機関砲を備えることもあるべきを予期すること。将来戦に於いては戦車は対戦車戦闘の余儀なき機会多きを顧慮す。」とある。従来「戦車は歩兵直協が主であり、戦車の撲滅には対戦車砲がたる」との考えから一歩進んだものといえる。

これに伴い資料収集のため4月21日・22日に愛知県の伊良湖射場で防弾鋼板および九七式中戦車に対する実弾射撃試験が実施された。使用火砲は中国軍から捕獲したドイツ製ラインメタル37ミリPAK36、ソ連製45ミリ対戦車砲、国産の試製九七式47ミリ速射砲、九四式37ミリ速射砲、九〇式57ミリ戦車砲であった。その結果として

1. 九四式37ミリ砲とラインメタル37ミリ対戦車砲の比較

榴弾の威力は大差ないが、徹甲弾の貫徹能力はラインメタル37ミリ砲がはるかに大きい。原因は弾丸の金属材質及び熱処理にあると考えられるが、精密な調査研究の後でなければ確実なことは不明である。

2. 試製九七式47ミリ速射砲とソ連製45ミリ対戦車砲

九七式中戦車砲塔に対して試製九七式47ミリ速射砲は射距離1000メートルで打痕がついたのみであったが、ソ連製45ミリ対戦車砲は1500メートルで完全に貫通し反対側面に大亀裂を生じさせた。

3. 九〇式57ミリ戦車砲とソ連製45ミリ対戦車砲

ソ連製45ミリ対戦車砲は戦車砲としても使用されているので、九〇式57ミリ戦車砲とも比較する必要がある。九七式中戦車に対し500メートルの射距離において九〇式57ミリ戦車砲は打痕がついたのみで、ソ連製45ミリ対戦車砲は1500メートルで完全に貫通。貫徹能力において相当の差がある。

これらの結果を元に6月13日の報告では、結論として「弾丸の金属質その他を不問として射撃威力のみを見れば、ソ連製45ミリ弾が第1とし、『ラ』式(ラインメタル製)37ミリと試製47ミリ弾は概ね近似し、57ミリ弾はこれに次ぐ。」と評価された。

またこれとは別に、6月26日に戦車学校でソ連製45ミリ砲と九〇式57ミリ砲の榴弾試験がおこなわれた。その目的は両者の暴露目標ならびに掩蓋に対する効力を比較して、戦車装備火砲の選定上の参考資料を得ることと、戦車砲として47ミリ級火砲使用の可否を検討するほか、細部希望事項に関する考察を行うことであった。

以上の各種試験を基に、次期戦車主砲として47ミリ砲の装備が固まってゆくこととなった。

■一式47ミリ戦車砲の開発と採用

次期戦車砲の開発研究のため資料を収集していたころ、満ソ国境においてノモンハン事件が起こった。双方の主張する国境線が曖昧なため発生した紛争であったが、現地の関東軍は自ら作成した国境処理要綱により第23師団を投入し事件は拡大していった。虎の子である戦車第3、第4連隊も参加してソ連軍の戦車部隊との戦闘を経験。戦車第3連隊には九七式中戦車が4台配備されて初陣を飾ることになったが、同車に搭乗していた吉丸連隊長が戦死するなど苦しい結果となった。この戦いで日本戦車部隊は初の本格的な機甲戦闘を経験することとなり、事件は国境線押し切られた日本軍の敗北となったが、戦車部隊では敵のBT戦車を多数撃破したことから日本戦車が相手に対して劣っているとは感じていなかった。

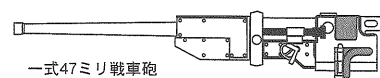
それにも増して、関東軍自身が敗北感を抱いておらず、冬の戦闘に向けてさらに師団を増強しソ連軍に対峙しようと考えていた。さすがにこの作戦は参謀本部の命令により阻止されソ連との停戦協定が実現するが、結果的に見てノモンハン事件は局地における特殊戦と考えられ、戦車や他の装備に対する改良・改善は省みられることはなかったのである。

この間にも、国内の研究会では次期戦車砲となる47ミリ砲の研究が続けられていた。同時に開発が進められていた新速射砲との弾薬の共通化や、新速射砲の53口径にたいし48口径として軽量化を図り垂直鎖栓式への変更が決定された。昭和15年1月九五式重戦車の揺架と試

製47ミリ砲の砲身を流用した試作砲が完成、試験を繰り返しながら基礎的な資料を得ていった。7月には専用の揺架も完成し「試製47ミリ戦車砲〇新」と名づけられ機能、抗堪性、弾道性の確認がなされた。

いよいよ9月には、当時次期主力戦車として計画されていた試製中戦車チホの砲塔に搭載し、ベースの車台に九七式中戦車が使用された試作車にて抗堪弾道試験が行われた。この九七式改造砲塔戦車は恐らく2両ほどが試作され、昭和15年10月の富士演習場においての諸兵種学校共同演習最終日に他の新兵器と共に展示。実弾射撃もおこなわれたという。

この戦車は16年1月に陸軍戦車学校と騎兵学校での実用試験をおこない、実用に適すると判断された。さらに小改造の後同年4月に修正機能試験を経て機能良好であるという判定を得た。9月に仮正式を上申、翌昭和17年4月1日をもって一式47ミリ戦車砲として正式採用された。基礎研究から実に3年の歳月を要していた。



一式47ミリ戦車砲

■九七式中戦車「新砲塔チハ」の戦線投入

大東亜戦争の開始と共に日本の戦車部隊はその先鋒として次々と戦地に投入されていった。マレー半島の作戦では戦車第1、第6連隊(九七式中戦車装備)、フィリピン攻略戦では戦車第4(九五式軽戦車装備)、第7連隊(八九式中戦車装備)がその任を負った。

マレー作戦に於いては敵の強力な機甲部隊が存在しなかったため、日本戦車の対戦車能力は問題とされなかった。しかし、フィリピンでは米比軍のM3シュアート軽戦車の出現により苦戦を強いられることとなる。

そこで参謀本部は正式採用前の「新砲塔チハ」1個中隊をフィリピン戦線に投入することを決定した。これには「新砲塔チハ」開発にも関わった戦車第7連隊長園田大佐の強い意向もあったといわれる。とはいえ実車は千葉戦車学校と満州の四平戦車学校にある2台のみであり、三菱重工東京製作所では大急ぎで生産が開始された。

隊員は千葉戦車学校及び戦車第2連隊から選抜して編成され、中隊長に松岡久少佐、各小隊長は豊田熙人中尉、宇野寛少尉、逸見清准尉が任命された。昭和17年3月1日のことである。

中隊は千葉戦車学校の1台を借用し、戦車第2連隊において砲の構造や機能・手入れ取扱法から始まり各種訓練を連日おこなった。3月12日、中隊は待望の新型中戦車である【九七式中戦車(新砲塔チハ)】昭和17年3月三菱重工東京機器製作所製10台を板橋陸軍補給廠で受領。20日に広島・宇品港から輸送船カンペラ丸で出航し、29日にフィリピン・マビラオに無事上陸した。

■バターン半島での初陣と米軍の降伏

4月1日、サマルで戦車第7連隊と合流した同隊は臨時松岡中隊と命名され、以後連隊の尖兵として第2次バターン攻略戦に参加する。早速3日に宇野少尉指揮により敵M3軽戦車への実弾射撃試験をおこない、距離1000mで前面装甲を撃破。今後の対戦車戦闘に自信を深めた。

6日には、戦車第7連隊長園田大佐戦死のため、松岡少佐が連隊長代理となり、第1小隊長の豊田中尉が連隊長指揮をとることになった。翌7日、バンダン河北岸にて「敵戦車3台、自動貨車を伴い現出。」の報に接し、戦車第7連隊第3中隊と共に追撃戦をおこない、友軍爆撃機とも共同の上これを撃破して初陣を飾った。

松岡中隊は8日以降、常に部隊の先頭に立って追撃戦を開始。アランガン河での戦闘、9日のカヤンガン河の戦闘と追撃を続行し、バターン半島最後の要であるマリバレスに至った。中隊がマリバレスに突入すべく進撃を開始すると、米軍の高級将校が30名あまりが投降して来た。その中の将官級将校を宇野少尉が小隊長車に乗せて連隊本部に送り届けた。実はこの高級将校の団がバターン半島防備軍の参謀達であった。こうして、当初1ヶ月を要すると思われたバターン戦は4月3日の攻撃開始から僅か6日後、4月9日に米軍の全面降伏によって終了した。

■コレヒドール戦での活躍

フィリピンで残された唯一の米軍拠点。それがコレヒドール島である。東西6.2キロ、南北2.1キロ。「おたまじゃくし」のような小島であるが、米軍が長年の歳月をかけて作った堅固な要塞島であった。

バターン半島陥落の翌日に同島の攻略が決定、4月14日に比島砲兵司令官の指揮する24榴9門、15榴24門、15加9門、10加12門が砲撃を開始した。この砲撃は3週間以上に及び、日本陸軍始まって以来の弾薬を叩き込んだ。この周到なる準備射撃のもと、5月5日をもって上陸作戦が敢行されることとなった。

作戦には戦車第7連隊松岡中隊から5台の戦車が、第4師団歩兵第61連隊と共に参加した。使用戦車は米軍から鹵獲したM3軽戦車2台、新砲塔チハ3台(635、637、638号車)だったが、実際に上陸を果たしたのは伊藤英雄大尉(M3)、土田重雄中尉(638)、高久光明伍長(637)らの3台だった。

コレヒドール島の上陸地点は岩石地帯で足場も悪く、しかも45度以上の急傾斜のため戦車は登板出来ない。そこで工兵の爆破作業の下、まずM3が崖を上りその他の戦車を牽引するという手段でついに全車が台上進出に成功した。5月6日の朝9時、上陸以来9時間が経過していた。

敵は思いがけない戦車の出現により恐怖をきたし、その日の内にウェンライト司令官は降伏を決定し島は陥落した。戦車そのものが降伏の原因ではなかったにせよ、松岡中隊の果たした役割は大きなものがあったといえる。

■大戦後期の九七式中戦車新砲塔チハ

新砲塔チハが再び米軍と対峙したのは、昭和19年6月のサイパン戦が最初であった。同島には満州から移動してきた戦車第9連隊が配属されており九七式中戦車を主力としていたが、新砲塔チハは4台のみであり各中隊長車として使用されていた。6月16日の総攻撃に呼応するよう戦車部隊にも出撃命令が下ったが、戦車の運用を理解していない司令部の夜襲作戦のため、部隊はその本領を発揮出来ないまま米軍のバズーカ砲の前に次々と撃破されていった。残った戦車はわずかのみであり、満州において猛訓練を積んできた戦車第9連隊は一夜にして壊滅してしまっ

た。昭和20年1月のフィリピン・ルソン島における戦闘は、戦車第2師団(戦車第6、第7、第10連隊)や独立戦車中隊など計240台以上の戦車が投入され本格的な機甲戦闘となった。特に戦車第7連隊が2年ぶりに再びフィリピンの地で戦うことになったのは何か因縁めいた物を感じざるを得ない。

関東軍の精銳をもってあつた防衛戦であったが、75ミリ砲装備のM4シャーマンを中心とする米戦車に対し47ミリ砲の新砲塔チハではその戦闘力に絶対的な差があった。M4に対しては側面などの弱点射撃で対応せざるを得ず不利な戦闘を強いられ、3月頃までに殆どの戦車を消耗しそのまま終戦を迎えることになる。

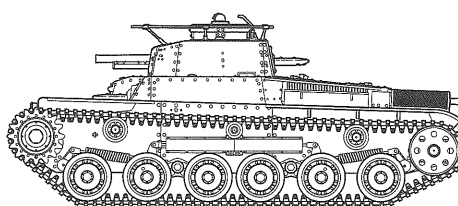
硫黄島では、乗馬競技のオリンピック金メダリスト西竹一少佐率いる戦車第26連隊が奮戦した。戦車を掩体壕に入れて、敵からの発見率を低くしながら敵部隊の撃破に努めた。米軍は硫黄島での戦闘で各種装甲戦闘車両240台以上を失ったといわれている。

帝国陸軍戦車部隊史の最後を飾った戦闘は、千島列島の占守島における戦車第11連隊の迎撃戦である。終戦直後の昭和20年8月18日未明、艦砲射撃を伴いながら上陸してきたソ連軍に対して連隊長の池田末男大佐は先頭に立ってこれを迎撃、早朝より戦闘を開始した部隊は反撃に遭いつつも一旦は海岸まで敵を圧迫した。しかし、損害も大きく連隊長を初めとした主要幹部は戦死、21台の戦車を失った。同日夕方には停戦命令により戦闘を停止するが、停戦協定が成立し島内の戦闘が完全に集結したのは8月21日のことであった。

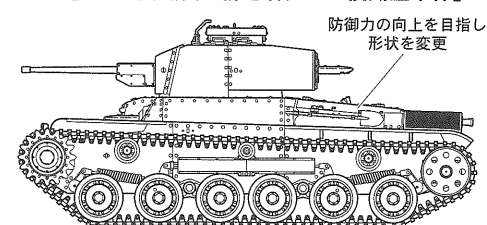
九七式中戦車はその採用から終戦まで日本戦車部隊の主力として奮闘し、部隊の将兵達からはその形状から「新砲塔チハ」、「新砲塔」、あるいはその搭載砲から「一式」、「47ミリ」と呼ばれていた。またフィリピンにおける本軍配備部隊では「一式中戦車」とも呼ばれていたことがあり、当時の米軍資料においても新砲塔チハを新型戦車と認識していたことも加え、後に「(本物の)一式中戦車がフィリピンに配備されていた」という説を招いた。

九七式中戦車同様、新砲塔チハは主に三菱重工東京機器製作所、陸軍相模造兵廠、日立製作所などで作られ、九七式中戦車の総生産数2123台の内、417台が新砲塔であったと考えられる。

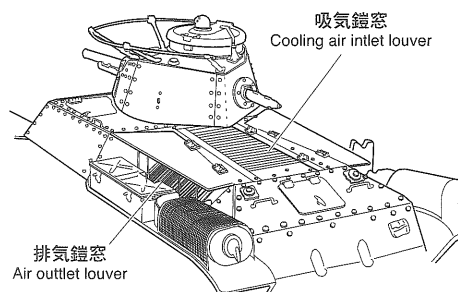
【九七式中戦車・チハ 前期型車体】



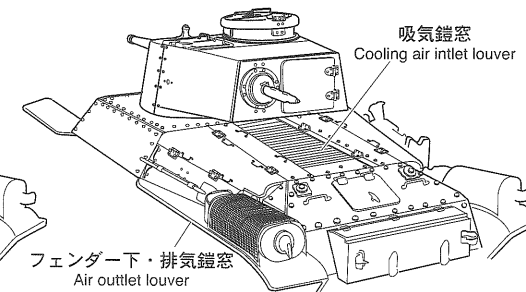
【九七式中戦車・新砲塔チハ 後期型車体】



【諸元】	
全備重量:	15.8 t
乗員:	4名
寸法:	
全長:	5.55m
全幅:	2.33m
全高:	2.38m
装甲:	
砲塔前面:	25mm
砲塔側面:	25mm
車体前面:	25mm
車体側面:	20mm
	25mm
武装:	
	一式四十七耗戦車砲×1
	九七式7.7耗車載重機×2



排気鏤窓 Air outlet louver



フェンダー下・排気鏤窓 Air outlet louver



【一式47ミリ徹甲弾】

新砲塔チハ車と一式中戦車に装備される。47ミリ戦車砲は60ミリ装甲板を500メートルの距離で貫通出来たという。

白色帯 White  
 黒色 Black  
 赤色 Red  
 弾頭  
 莖莖 (真鍮製・無塗装) Brass

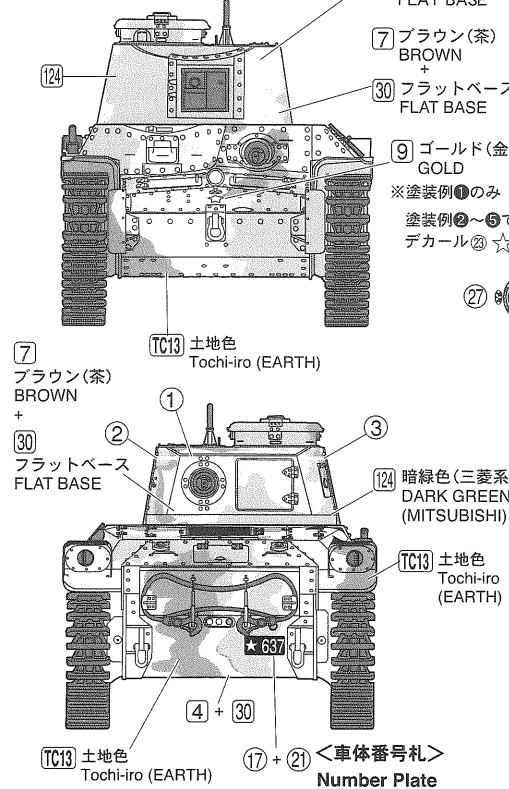
## 塗装とマーキング

### 大戦中期までの迷彩 Painting & Marking Early

※塗装例①～⑤まで共通の迷彩塗装です  
図示していないデカールは使用しません

#### ●臨時松岡中隊 637号車

コレヒドール島要塞攻撃で新砲塔チハ638号車と鹵獲されたM3軽戦車とともに上陸に成功、地上部隊支援に貢献した。

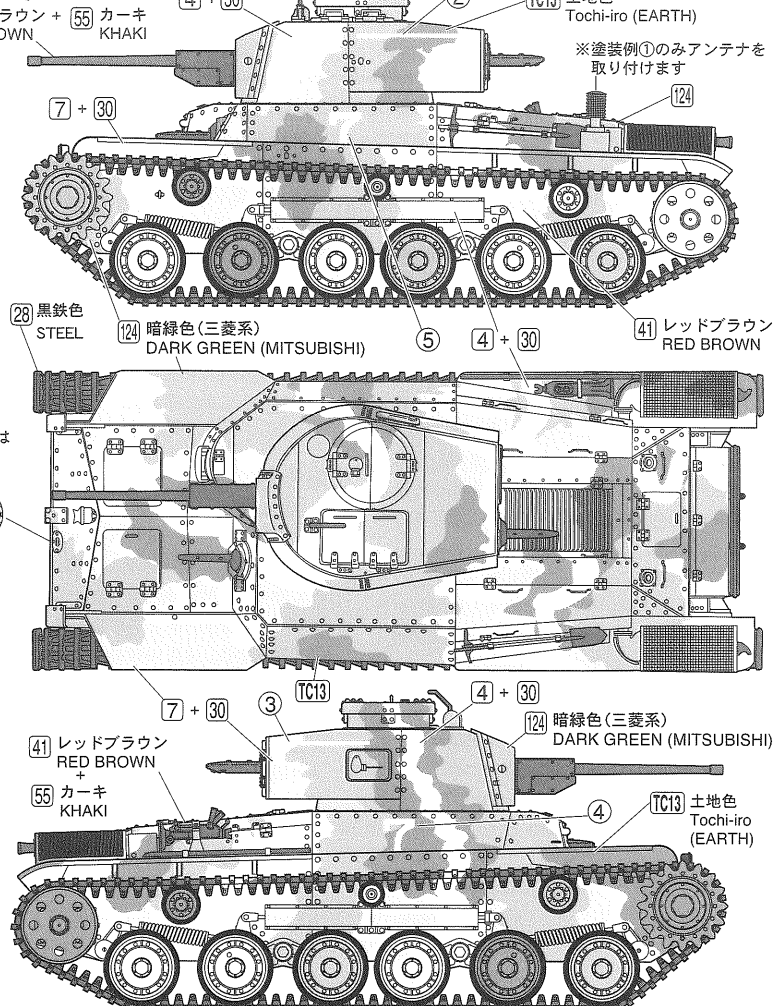


●各部の塗装はGSIクレオス「Mr.ホビーカラー」「Mr.カラー戦車色セット」「日本陸軍後期迷彩色」セット内の色番号を口内の数字で、続けて色名を指示しています。○で囲まれた数字は付属デカール(水転写シール)の番号です。次ページの「デカールの貼り方」を参照してください。

Boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers. Circle numbers refer to decal numbers.

### 塗装例①, 戦車第7連隊 臨時松岡中隊 高久佐長車(637号) コレヒドール島 昭和17年

Scheme ①, 7th Tank Regiment 1942



### 大戦中期までの迷彩(上記図)における他のマーキング例

### Other Markings Early

#### 塗装例②, 戦車第9連隊 第5中隊長 柴田勝文大尉車 昭和19年 サイパン島

Scheme ②, 9th Tank Regiment 5th Company

Saipan Is. 1944



#### 塗装例③, 戦車第13連隊 中国大陸

Scheme ③, 13th Tank Regiment, China

大戦中期までの迷彩



#### 塗装例④, 独立戦車第8中隊 昭和20年 ルソン島

Scheme ④, 8th Tank Independent Company, Luzon Is. 1945

大戦中期までの迷彩



#### 塗装例⑤, 千葉戦車学校 所属車両

Scheme ⑤, Chiba Tank School

大戦中期までの迷彩



昭和19年6月の米軍によるサイパン島上陸に際し、戦車連隊は夜襲により果敢に反撃。一時は米軍指揮所まで迫る勢いをみせたが後に戦車戦力の大部分を失う。

主に中国大陸を主戦場として終戦まで活躍した。昭和19年、米中両軍の空軍基地撃滅を企図した京漢作戦では戦車第3師団に属して、他の戦車第17連隊とともに攻撃の主戦力として活躍した。

戦車第2連隊補充隊より編成され、九七式中戦車11両を装備してフィリピンへ派遣される。若下市平大尉指揮のもと、昭和20年1月のクラーク・マルコット飛行場防衛戦にて奮戦する。

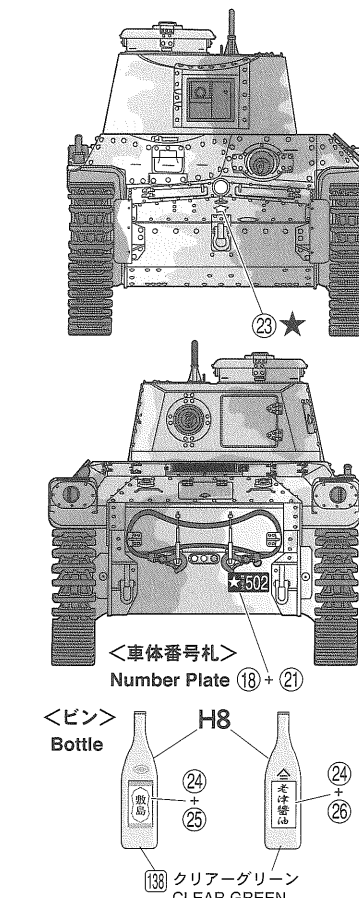
昭和11年9月に新設され、戦車兵の教育と運用の研究などを担当した。その後昭和19年7月に千葉戦車学校教導隊を基幹として戦車第28連隊が編成された

## 塗装とマーキング

### 大戦後期の迷彩 Painting & Marking [Late]

#### ●戦車第5連隊

昭和12年に久留米にて編成される。後に戦車第1師団に属し、昭和20年3月に満州から内地防衛の為に関東地方へ移駐した。

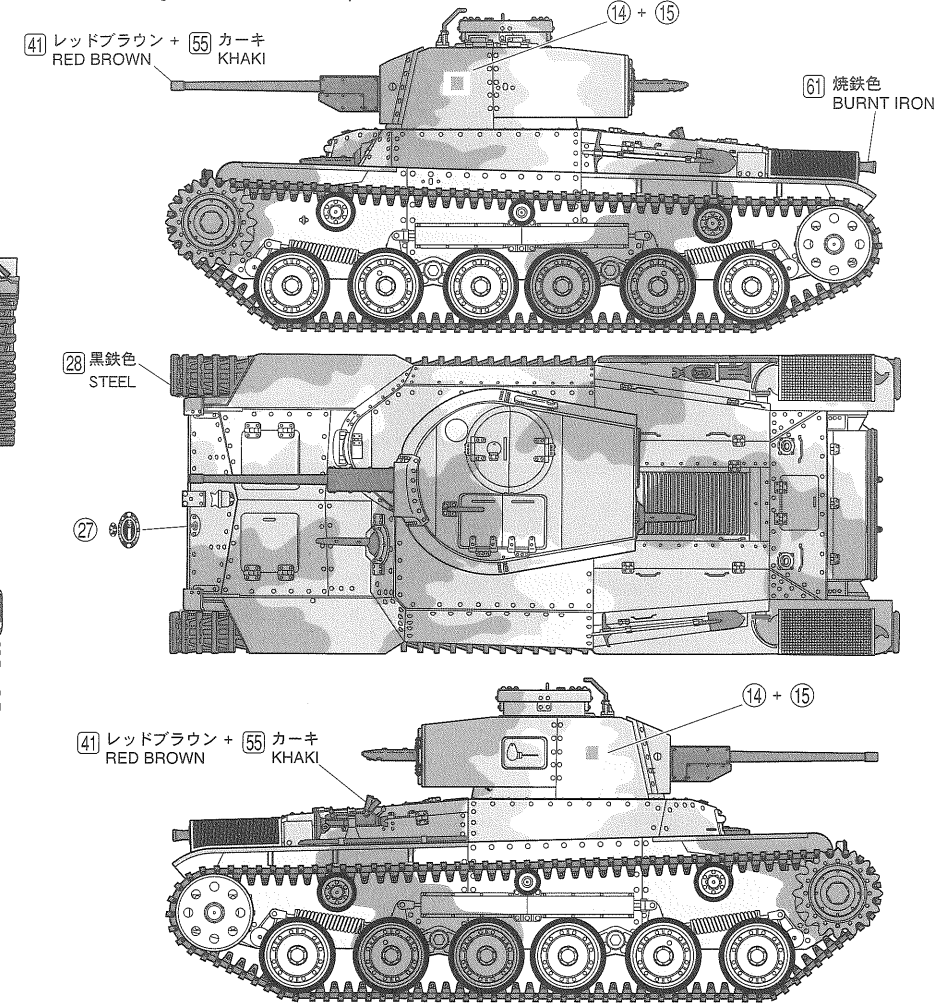


車体の迷彩色はGSIクレオス「Mr.カラー戦車色セット」「日本陸軍後期迷彩色」セット内の各色を指示しています(下記参照)。細部の塗装はGSIクレオスMr.ホビーカラーの番号を口内の数字で、続けて色名を指示しています。

Above indicated colors assort as "Mr. SPECIAL COLOR SET: Tank Colors for Imperial Japanese Army". (Product No. CS-603 from GSI Creos) Other boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers.

### 塗装例⑥, 戦車第5連隊 連隊本部 埼玉県 昭和20年8月

Scheme ⑥, 5th Tank Regiment Saitama Prf. Japan 1945



### カラーナンバー対応表 Color Correspondence Table

GSIクレオス・Mr.カラー(口数字)	GSIクレオス・水性カラー	タミヤカラー	ENGLISH	DEUTSCH
1 ホワイト(白)	H1 ホワイト(白)	X2 ホワイト	WHITE	WEIß
4 イエロー(黄)	H4 イエロー(黄)	X8 レモンイエロー	YELLOW	GELB
5 ブルー(青)	H5 ブルー(紺)	X4 ブルー	BLUE	BLAU
7 ブラウン(茶)	H7 ブラウン(茶)	X9 ブラウン	BROWN	BRAUN
8 シルバー(銀)	H8 シルバー(銀)	X11 クロームシルバー	SILVER	SILBER
9 ゴールド(金)	H9 ゴールド(金)	X12 ゴールドリフ	GOLD	GOLD
28 黒鉄色	H18 黒鉄色	XF10 ガンメタル	STEEL	STAHL
30 フラットベース	H40 つや消し剤	X21 フラットベース	FLAT BASE	MATT GRUNDIERUNG
33 つや消しブラック	H12 つや消しブラック	XF1 フラットブラック	FLAT BLACK	MATT SCHWARZ
41 レッドブラウン	H47 レッドブラウン	XF64 レッドブラウン	RED BROWN	ROT BRAUN
43 ウッドブラウン	H37 ウッドブラウン	XF2+XF64	WOOD BROWN	HOLZ BRAUN
47 クリアーレッド	H90 クリアーレッド	X27 クリアーレッド	CLEAR RED	ROT, REIN
49 クリアーオレンジ	H92 クリアーオレンジ	X26 クリアーオレンジ	CLEAR ORANGE	ORANGE, REIN
55 カーキ	H81 カーキ	XF49 カーキ	KHAKI	KHAKI
61 焼鉄色	H76 焼鉄色	XF7+XF56	BURNT IRON	GEBRANNTES BLAU
62 つや消しホワイト	H11 つや消しホワイト	XF2 フラットホワイト	FLAT WHITE	MATT WEIß
124 暗緑色(三菱系)		XF11 暗緑色	DARK GREEN	DUNKEL GRÜN
138 クリアーグリーン		X25 クリアーグリーン	CLEAR GREEN	GRÜN, REIN
TC13 土色	日本陸軍後期迷彩色セット(CS603)		TOCHI-RO (EARTH)	
TC14 草色			KUSA-IRO (GRASS GREEN)	
TC15 枯草色			KAREKUSA-RO (PARCHED GRASS)	

### ●デカールの貼り方●

1. 1回に必要なマークのみを台紙と共にハサミで切り抜きます。
2. 切り出したマークを10秒から20秒程度ぬるま湯に浸してから引き上げます。
3. モデルの貼りたい位置にマークを台紙ごと移動し、マークをずらしながらモデルに移します。
4. 濡らした指などでずらしながら正しい位置に動かします。
5. 位置が決まったら柔らかい布や綿棒などを使用し、中心部から気泡と水分を押し出すようにマークを固定します。(力を入れすぎるとマーク全体が移動するの注意)
6. 曲面や表面の彫刻部にマークを密着させたいときは、GSIクレオス社製Mr.マークソフターを使用し、綿棒などで慎重に作業してください。貼ったマークは乾いて面着するまで触れないようにします。(マークソフターの使用方法は製品の取扱説明を参照してください)

### Decal Application

1. Cut off each mark from the sheet.
2. Dip the mark into lukewarm water for about 15 seconds.
3. Place the mark in position, and slide it off the base paper and onto the model.
4. Move decal into position by wetting decal with finger.
5. To Push out excess water and air bubbles under mark, Push decal gently with the soft cloth or cotton sticks.
6. Use a hot steaming towel or decal softener to mold decal over sculpted or nonflat surface.
7. Do not touch the decal until it has become dry and firmly attached to model.





### 7 キャタピラの取り付け

■キャタピラの組み立て

●接着剤を付けます

28 黒鉄色 STEEL

※キャタピラは向きに注意して起動輪側から回す様にして装着します。

### 8 車体上部の組み立て

33 つや消しブラック FLAT BLACK

E7 E15

E13

E2 E10

E11 1.0mm 0.6mm

F1 F20

33 つや消しブラック FLAT BLACK

F1 1.0mm 0.6mm

塗装例①の場合 Scheme ①

F1 1.0mm

### 9 車体の組み立て

F16

A8 A8

F21

F15

### 10 車体前部・装備品の取り付け

E12 H5 A10

62 つや消しホワイト FLAT WHITE

塗装例①の場合 Scheme ①

9 ゴールド(金) GOLD

A22

F2 F35 F36

### 11 消音器(マフラー)とジャッキ台の組み立て

<消音器・右> Exhaust Muffler (Right)

<消音器・左> Exhaust Muffler (Left)

<ジャッキ> Jack

A17 A14 A18 A19 F34 A4 F38

A17 A14 A18 A19 F33 A4 F37

F7 F6 F39

41 レッドブラウン + 55 カーキ RED BROWN + KHAKI

A21

### 12 車体後部側面・装備品の取り付け 1

<消音器・左> Exhaust Muffler (Left)

M2 エッチングパーツ Photo Etched Parts

F31

61 焼鉄色 BURNT IRON

41 + 55

F25 F24

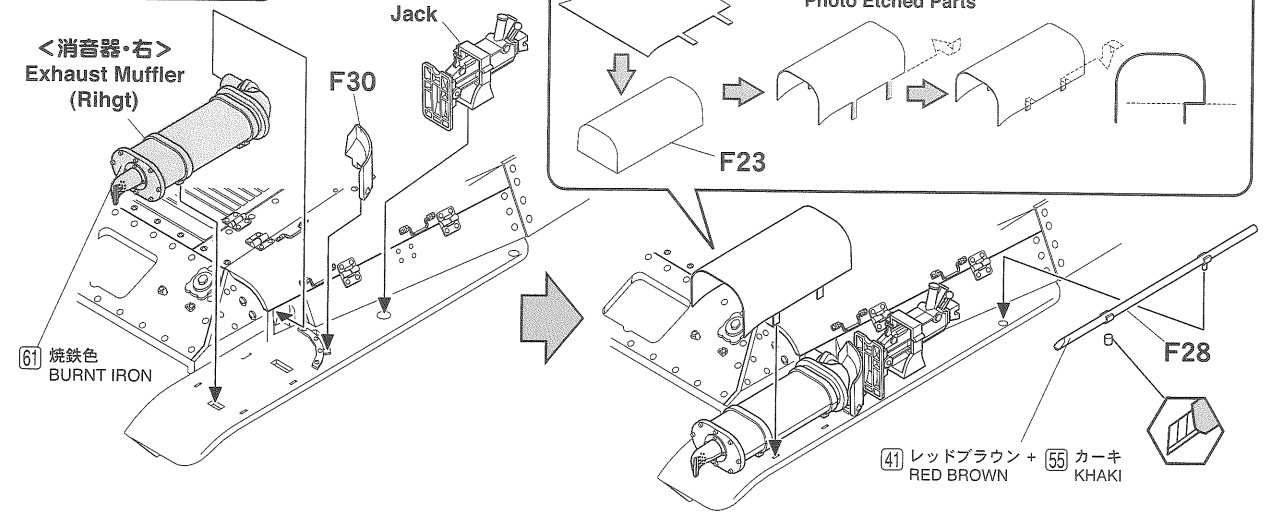
41 レッドブラウン RED BROWN

塗装例①の場合 Scheme ①

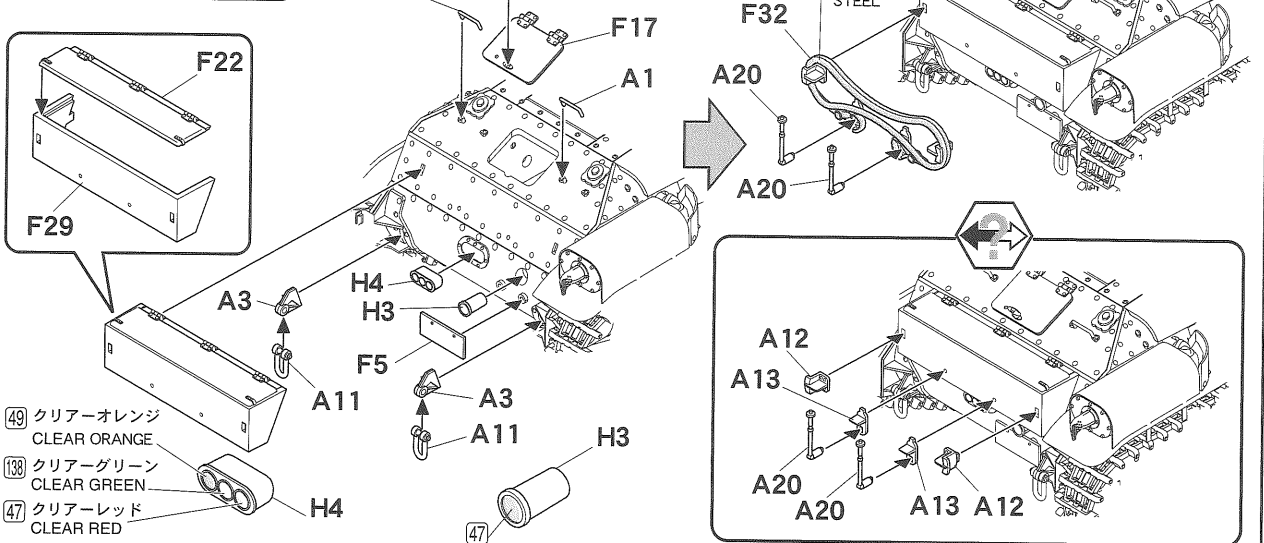
A6

A5 F14

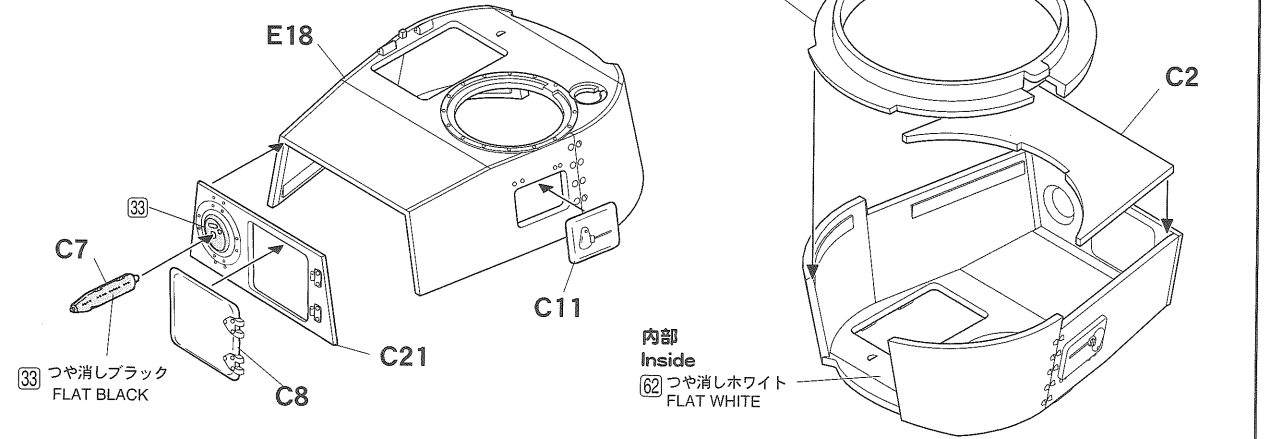
### 13 車体後部側面・ 装備品の取り付け2



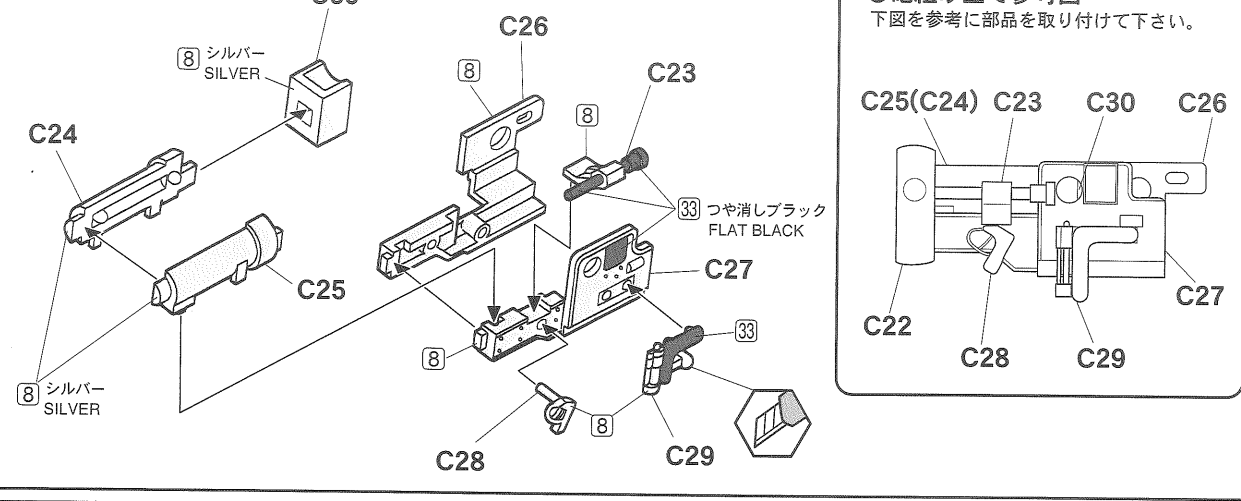
### 14 車体後部・装備品の 取り付け



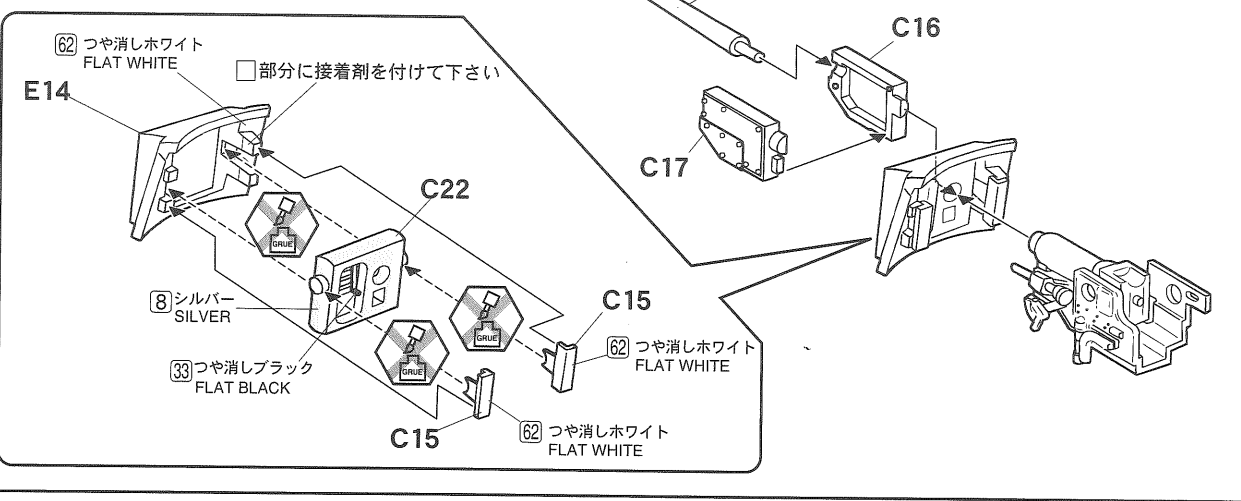
### 15 砲塔の 組み立て



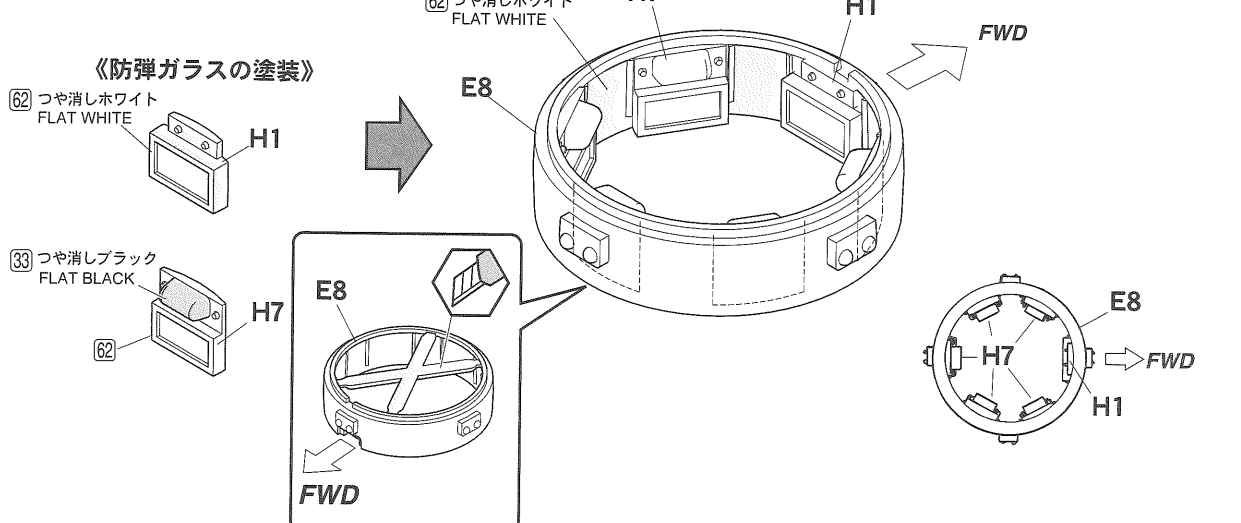
### 16 戦車砲の 組み立て



### 17 砲架への 取り付け



### 18 展望塔・防弾ガラスの 取り付け

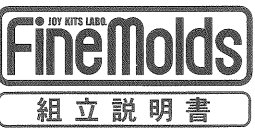




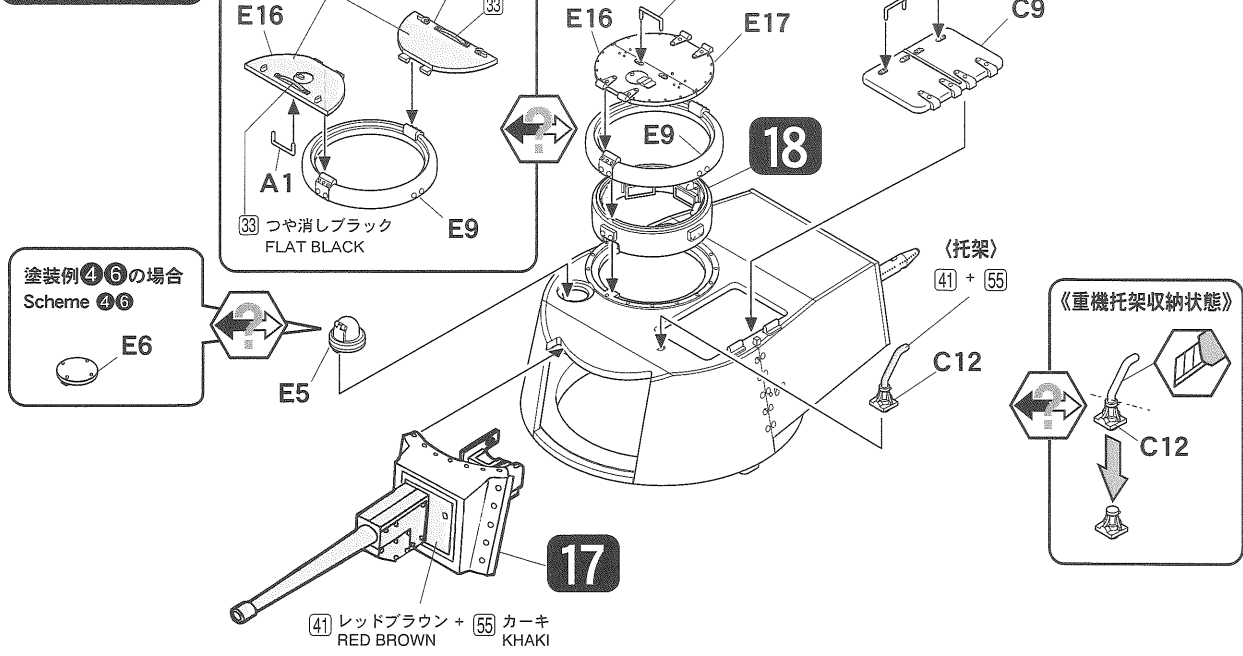
# "SHINHOTO CHI-HA"

帝国陸軍

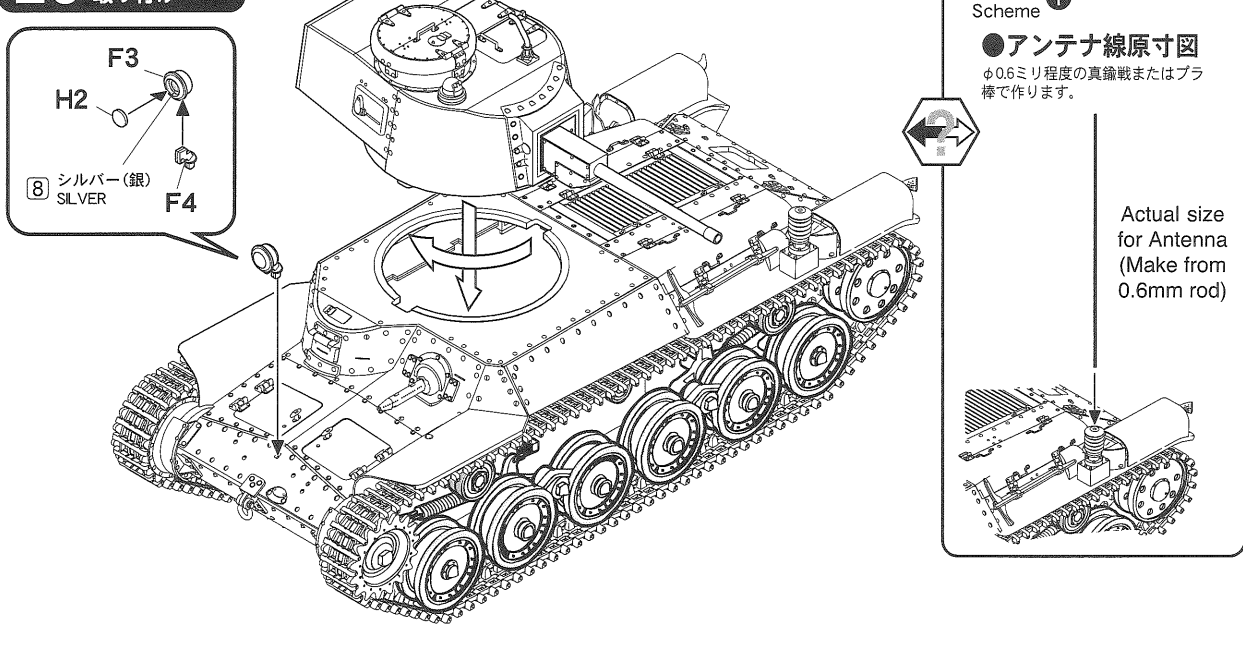
# 九七式中戦車 [新砲塔チハ]



## 19 砲塔の組み立て2



## 20 砲塔・前照灯の取り付け



※製造には万全の注意を払っておりますが、万が一製造上の不良部品が内包してございましたらお手数ですがご購入日およびご購入店様名をお書添えの上不良品をご郵送ください。送料分の切手と代品をお送りいたします。

**Finemolds**  
有限会社ファインモールド  
〒441-3301  
愛知県豊橋市老津町字の場53-2  
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811  
インターネットホームページ  
<http://www.finemolds.co.jp>  
©2006 FineMolds MADE IN JAPAN

破損・紛失による部品請求カード		FM21 九七式中戦車(新砲塔)	
A(1枚).....	¥600	J.....	¥900
B(1枚).....	¥900	M.....	¥400
C.....	¥800	デカール.....	¥400
E.....	¥900	履帯(1本).....	¥300
F.....	¥1000	組立説明書&解説書	¥400
H.....	¥400		

Use Only in Japan

## 作る前にお読みください

●この製品は組み立てモデルです。あらかじめ本説明書の全行程に目を通し、組立説明書の行程ごとにイラストを参考にして、部品の接着位置を事前に確認しながら組み立て作業を進めてください。

●本製品には接着剤・塗料は付属しておりません。プラスチックモデル専用の接着剤と塗料を別途お買い求めください。

●組み立てには模型用ニッパー、カッターナイフの他、ピンセット、ピンバイス(ドリル刃0.6、1.0mm)をご用意ください。小さなパーツの取り付けはピンセットを使い慎重に作業してください。

●各部の塗装はGSIクレオス社製Mr.ホビーカラーの番号を□内の数字で、続けて色名を表示しています。水性ホビーカラーやタミヤカラーを使用する場合は、別紙のカラー対応表を参照ください。

This is an unassembled model kit. Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. Check the glue position before gluing parts with the illustration. Glue and paint are not included in kit.

Also need side cutters, modeling knife, tweezers, and pin vise with 0.6mm, 1mm bits. Please use tweezers for the installation of small parts and glue it carefully.

Boxed numbers in illustration refer to "Mr.color" paint color numbers. Also check the color reference on the another sheet.

**注意**

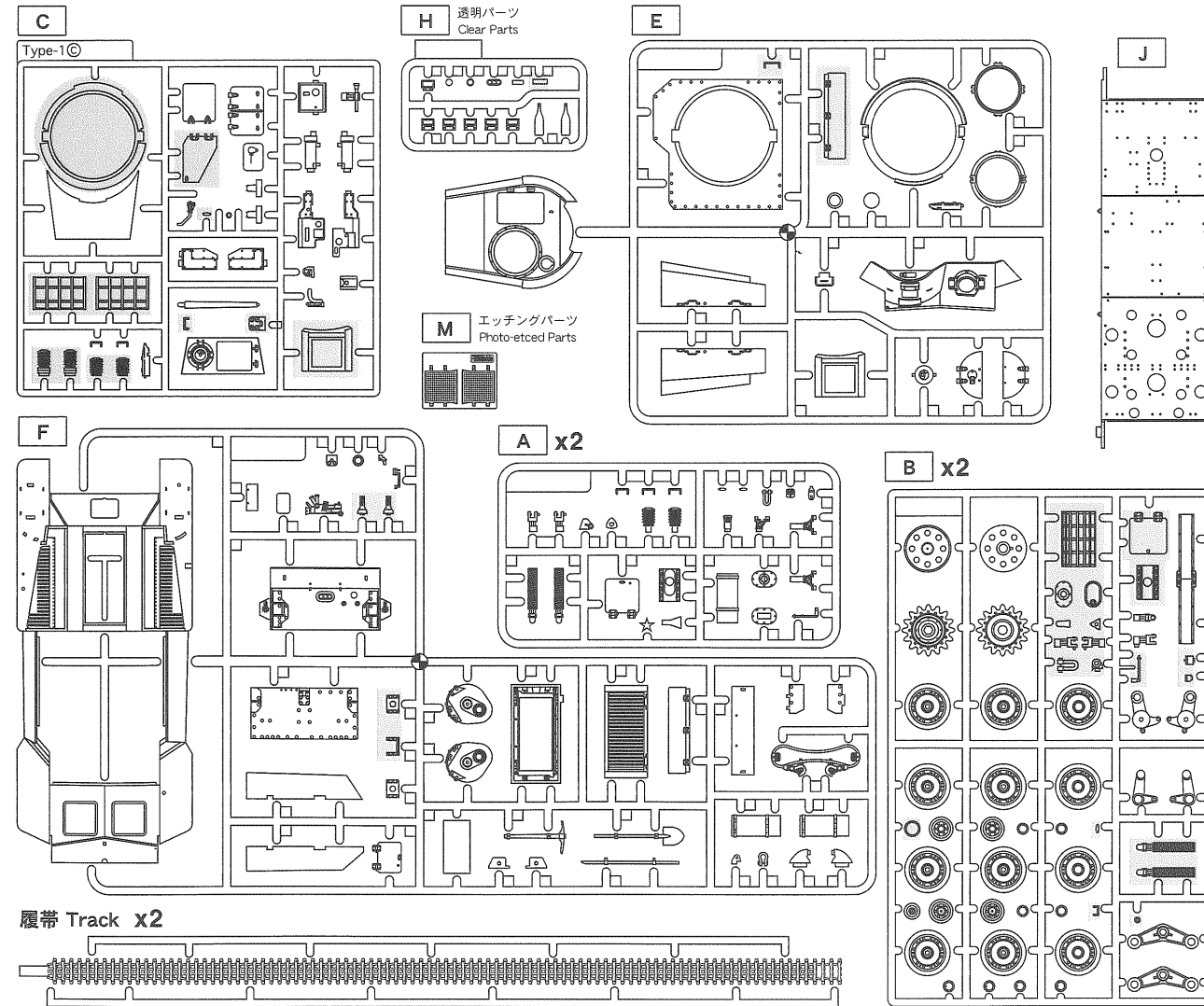
- 本製品は玩具ではありません。対象年齢15歳以上の組み立てモデルです。作る前にこの組立説明書をよくお読みください。
- 部品を取り出した後のビニール袋は、子供が顔から吸ったり飲み込む恐れがあります。開封後は破り捨ててください。
- 部品はきれいに切り取り、切り取った後の不要部分や切り取りクズは「プラスチックごみ」として、お住まいの地域のルールに従いゴミとして処分してください。
- 尖っている部品があります。使用目的以外には絶対に使わないでください。小さいお子様の手の届く所に放置しないでください。
- 特に小さいお子様のいる家庭では部品や部品切り取り後の不要部、ビニール袋等を誤って飲み込まない様に注意してください。小さなお子さまが側にいる。もしくは出入りする環境での作業や放置はおやめください。
- 部品組み立ての際、ニッパー・ナイフ・ヤスリ等を不用意に取り扱うと刃先で怪我をする恐れがありますので注意してください。
- 接着剤、塗料を使用する場合は、下記に注意してください。
  - 中毒の恐れがあるので閉めきった室内では使用しない。●引火の恐れがあるので火の近くで使用しない。●接着剤・塗料は目や口に入れない。誤って入れたときはすぐに大量の水で洗い流し医師に相談すること。
- 工具・接着剤・塗料等を使用する前には、それぞれの説明書に記載された注意事項をよく読み、正しく使用してください。

**CAUTION MAKE SURE TO READ INSTRUCTIONS LISTED RIGHT BEFORE ASSEMBLING.**

THIS IS NOT A TOY! THIS KIT IS SUITABLE FOR AGE 10 TO ADULT. ADULT SUPERVISOR SHOULD ALSO READ INSTRUCTIONS WHEN ASSEMBLED BY CHILDREN AGED 14 OR YOUNGER.

- THIS IS AN UNASSEMBLED KIT. READ THE INSTRUCTIONS BEFORE ASSEMBLY. 2. TEAR UP AND THROW AWAY THE PLASTIC BAGS CONTAINING KIT PARTS AS CHILDREN MAY SUFFOCATE BY SWALLOWING OR WEARING OVER HEAD. 3. CUT THE PARTS OFF PROPERLY AND THROW WASTE PARTS INTO DUSTBOX AT ONCE. 4. DO NOT PLAY WITH THE PARTS FOR ANY OTHER PURPOSE, AS SOME PARTS MAY BE TOO SHARP. MORE CAUTION AND CARE NEEDED FOR FAMILIES WITH INFANTS. 5. KEEP ALL PARTS OUT OF REACH OF SMALL CHILDREN. CHILDREN MUST NOT BE ALLOWED TO PUT ANY PARTS IN THEIR MOUTHS, OR PULL PLASTIC BAGS OVER THEIR HEADS. 6. WHEN ASSEMBLING THE KIT, TOOLS INCLUDING KNIVES ARE USED. EXTRA CARE SHOULD BE TAKEN TO AVOID PERSONAL INJURY. 7. BE CAUTIONS AS FOLLOWS WHEN USING ADHESIVES AND/OR PAINTS: DO NOT USE IN CLOSED ROOM TO AVOID POISONING/TOXIC. DO NOT USE NEAR FIRE TO AVOID FLAMMABILITY. MISTAKENLY PUT INTO, WASH OUT PROMPTLY WITH FULL WATER AND CONSULT A DOCTOR. 8. READ AND FOLLOW THE INSTRUCTION SUPPLIED WITH TOOLING, GLUE & COLORS.

## パーツ図 Parts



Parts not for use. Nicht verwenden Non utilisées